

発行日 2025年4月29日

通算第465号(第1号1982年12月)

仏教瞑想道場情報誌「祈り・瞑想・癒し」(月報)

## まごころの声 5月号

発行人 影山教俊 年間購読料 ¥3,000円(郵送料共)

発行所 296-0004 千葉県鴨川市貝渚2929 為替 00120-6-665752

日蓮宗釈迦寺「仏教瞑想道場」 TEL 0470-92-0901 (

常不軽庵 TEL 0470-93-3438) FAX 0470-94-5750

URL: <http://syakamuni.world.cocacn.jp/>

E-mail: [gef02653@nifty.ne.jp](mailto:gef02653@nifty.ne.jp)



### 今月のお話

#### —宗教心の変節した日本—

今月は私たち日本人が疑問に思っていない宗教もしくは宗教心について考えてみた。

#### ●「宗教」は英語の日本語訳だった

まずいま、私たちが使っている宗教という言葉が、じつは英語「religion」の訳語であることに注目してみたい。仏教界でも「肉食妻帯勝手たるべし」と僧尼令廃止という大変革が起きた明治5年(1872年)、日本は本格的に西洋の制度や価値観を取り入れた。とくに「大学制度」「医学」「哲学」などがドイツやフランスを中心とした欧米の影響を強く受け、日本全体が“西欧化”の方向に舵を切った時代だった。

その時代に行われた最重要事項は、西欧の大学に留学していた学者先生が英語辞書の日本語訳を始めたことだ。その過程で

「religion」を「宗教」と訳したことで、私

たちは西洋概念の「宗教」をそのままを日本の考え方として受け止めたことである。

しかし、「religion」はもともと信仰を意味していたキリスト教的な宗教観で、「信条\*の体系としての宗教」を翻訳して「宗教」と名付けてしまった。そのために江戸時代までの仏教や神道が再解釈され、本来の仏教、神道から変節していることに気づいている人は少ない。これから、それを明らかにしてみたい。(※信条とは人が大切にしている考え方、信念、人の行動の基準になるもの)

西欧の「religion」の本質とは、とくにキリスト教圏のヨーロッパでは、唯一神への信仰を意味するものであり、明文化された教義や聖典、さらには教会や聖職者などを含めた「組織化された超越的信仰体系」がセットとなっている。つまり「religion」は、神の言葉であるという明確な形の「制度・決まりごと」なのである。(日本人にとっては、制度ではなく、信仰・そういうものだという感覚をいう)

こういうことに気づくと、欧米人たちが疑問に思っている日本人の宗教観、12月24日クリスマスを楽しみ、年の暮れにお寺で除夜の鐘をつき、新年には神社に初詣するという

宗教的な曖昧さについて合点がゆく。

### ●日本の宗教・信仰はどんなだった？

江戸時代までの日本では仏教と神道は習合されて一つだった。仏教が伝来する以前の日本は八百万（やおよろず）の神々による生活としての神道があった。その神道にはそもそも「教義」のような明文化された理論体系がなかった。それは祀り方とか儀礼、自然や祖霊との関わりが、生活の中に溶け込んだ「おこない」そのものだった。

だから古代の日本人は「自分がなぜ祈っているのか」を深く理論的に考えるというより、「そういうものんだ」という生活文化を楽しんでいた。ところが、仏教が6世紀ごろに伝来してきたとき、その構造にカルチャーショックを受けた。仏教には修行があり、教えがあり、戒律あり、多様性に富んでいながら、なおかつ、この神様をおがめと言わない柔軟性があった。

そこで仏教用語を使って神道が自己主張をするようになる。本来の仏教にはない、日本仏教独特の行事が行われ始める。盆・暮れ・彼岸（ぼん、くれ、ひがん）の行事がそれだ。これらはお坊さんも「仏教行事」と思っている人がほとんどだが、その多くは元々神道的な行事や風習に、仏教的な言語や形式がかぶさっているというのが実態なのである。

たとえば、お盆（盂蘭盆）は、仏教では「地獄で苦しむ霊を救う」という教義に基づくが、じつはそれ以前から日本では「祖霊を迎える夏の祖霊祭」（祖霊迎え）があり、それと儀式がドッキングした神道行事だった。とくに亡くなって50年未満の荒魂（あらみたま）が帰ってくるという。

門松や供え餅の正月行事は完全に神道の「歳神さまを迎える」行事で歳神＝新年の豊穰をもたらす神様で、「家にお迎えして、鏡

餅でおもてなしして、門松で案内」するという。神道では亡くなって50年以上たった和魂（にぎみたま）が神様になって帰ってくるという。

彼岸会（春分・秋分）は、これも仏教の「到彼岸（悟りに至る）」という思想があるが、古来の日本ではこの季節の変わり目に祖先や自然を祀り息災延命を祈る風習があった。

つまり「彼岸会」は神道的祖霊信仰を仏教の修行でラッピングしてハイブリッドな彼岸会の養生法ができたといえる。

じつは仏教用語でしゃべっているが、やっていることは昔ながらの神道」という行事が日本にはすごく多いのである。これは日本人の信仰が「教義ではなくて、習慣と感覚でできている」という証拠だといえる。

### ●「宗教」という訳語の衝撃

明治時代に西欧列強に対抗するために、宗教制度の近代化が必要になった。そのためキリスト教＝religion に対抗できる日本の宗教観が必要になったため、仏教や神道が「宗教」というカテゴリに入れられてしまった。つまり、現代の日本仏教も神道も、これは西洋的な物差しで、日本の精神文化を「再編」したものだといえる。



## 妙慧の法尼の眼から

### —女性の荒行—

その結果、日本仏教、神道も「religion」扱いになり、「宗教法人」という制度に整理される。「信仰の自由」も登場し、宗教が“個人の内面”にあるものとして定義されてしまったといえる。

明治以降、西洋型の「religion（宗教）」概念が日本に輸入された結果、日本仏教も神道も「宗教法人」として近代国家の枠組みの中に整理された。「信仰の自由」が保障された一方で、宗教は「個人の内面の問題」「頭で信じるもの」というふうになり、ものすごく観念化・抽象化されたために、宗教本来の役割である「生きる苦しみや不安を解消する」「魂を慰め、支える」という現実的な力を失ったといえる。

仏教が力を取り戻すには、お経を読み、お題目を唱えて、実際の安心感が芽生えてくれば、それこそが宗教心である。お題目を唱えましょう。「南無妙法蓮華経」の言葉だけになり、無心な体験によって心身にわたる苦悩は改善する。

住職



4月3日から21日間、岡山の最上稲荷山妙教寺にある荒行堂で修行をして参りました。男性の荒行は、中山法華経寺にある本山行堂と遠寿院で、100日間の修行です。最上稲荷には男性の21日間荒行も11月3日から行われます。女性のこのような荒行はなく、祈祷師を目指す尼僧の修行は、岡山の最上稲荷のみであります。

去年に引き続き、再行で21日間結界をして、唱題行、読経、水行を繰り返す日々を過ごして参りました。

今年も行場は、4月に入っても寒い日が続いて、手足はあかぎれ、しもやけになり、一週間ごとに入れる風呂でも身体が温まらないほど冷えました。しかし、朝4時から3時間おきに7回行う水行で腎膀胱系の経絡を刺激し、体温を取り戻しながら行を続けました。

食事は最初の一週間は白粥と野菜の味噌汁を朝晩。その一週間は自行段と言って、自分を見つめる、自分の中にあるおもいに気づく行で、夜10時の水行の後にも、深夜行といって伝師部の方の指導でお経の転読が1時間ほどあります。

朝、夕の勤行に伝師部のかたの指導をいただきます。2週間目から昼にうどんの供養があり、おかずも1品つけられます。今回一緒したのは44才のお寺の奥様でこれから信行道場へ行く予定の方との二人での行でしたので、行事の飾り付けや食事の準備など様々な部分で、初行がする事が多くなり、分担して過ごしました。

食事の後のお清めに理解を頂いたので洗い物の手間と時間が省けました。昔の武士の箱

膳方式です。料理はほとんど私の担当にして頂き、マクロビオティックのごま油を使った野菜料理、温まるものを作りました。行事で上がった果物は身体を冷やすので、最後の一週間で食べました。行の中で身体を調えるのは、水行と食事です。気温やその人の体調を見ながら、陰陽のバランスを考えられました。いつもの生活が菜食であり、季節を考えるやり方で本当によかったと思います。

行の中の自分を見つめる時間は、とても貴重で外部との連絡を遮断して、諸々の出来事から守られて御神仏との時間をとれた事に感謝いたします。

私の目的は祈祷師になることではありませんでしたが、この体験によりたくさんの方々のお力になれば幸いです。

### 【YouTube Live 配信中】

#### ◆YouTube・ライブ配信のご案内◆

- ①Dr.Kyoshun の瞑想チャンネル  
<https://www.youtube.com/@dr.kyoshun8589>
- ②お坊さんが教えるヨガと瞑想チャンネル  
<https://www.youtube.com/@deyogayoga753>

### 【アーユルマクロ・ヨガ】

- 2025年5月26日(水)
- 10:00 陰陽座学
  - 11:00 マクロ料理
  - 12:00 試食会
  - 13:00 アーユルヴェーダ
  - 14:00 ヨーガ

### 【Shun's Cafe】

完全予約制にて営業いたします。

《お寺では裏千家茶道教室を開設中》

## § 5 月のご案内 §

#### ◆瞑想祈祷会◆

8日(木) 14:00より  
参加費:1000円

#### ◆お施餓鬼会◆

15日(木) 14:00より  
水向塔婆:500円・燈明料:500円

#### ◆瞑想会・健康ヨーガ◆

○朝ヨガ 4日(日)・18日(日)  
25日(日)  
7:00~8:30

○東金ヨガ 9日(金)・16日(金)  
22日(木)  
13:00~15:00

### 5 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4 朝ヨガ	5	6	7	8 祈祷日	9 東金	10
11	12	13	14	15 せがき会	16 東金	17
18 朝ヨガ	19	20	21	22 東金	23	24
25 朝ヨガ	26	27	28	29	30	31